

肉便器の朝は早い

#02 雛瀬 桃香

シナリオ…宝井こじか

サークル名…ケチャップ味のマヨネーズ

ナレ「肉便器の朝は早い」

桃香「おはようございます」

桃香「え？何ですか？……ああ、わたしの格好ですか？あまりジロジロ見ないでください」

桃香「先生がわたしに命じたバレリーナの格好……そんなに見られると恥ずかしいです」

桃香「全裸にトウシューズだなんて、変態ですよ。こんな格好でバレリーナだなんて……」

桃香「午前中は最後のレッスン、午後はいよいよ本番ですね」

ナレ「そう、わたしが肉便器として皆様にメチャクチャにされる発表会の本番なのです」

ナレ「わたしは先生の前にひざまずいてズボンからチンポを取り出し、フェラチオを始めました」

桃香「んふう、じゅぼっ　じゅぼっ　じゅぼっ……」

桃香「先生の、おつきいれすう……桃香のお口、気持ちいいですかあ？」

桃香「……じゅぶっ　じゅぶっ　じゅぶっ……んふ　んふ　んふ……はあっ……」

桃香「（先生が口に出した精液を飲み込む）ごくんっ」

桃香「……んっ……はあ、はあ、はあ……」

桃香「先生、肉便器のレッスンを……今日もよろしくお願いします」

ナレ「これが、わたしが肉便器としてのレッスンを受けるための先生へのご挨拶です」

ナレ「わたしは、小さなころからバレリーナに憧れていました」

ナレ「綺麗な衣装を着て、トウシューズを履いて……」

ナレ「あの日、バレエの舞台に立つことを懂れていたわたしは」

ナレ「バレエのレッスンではなく、肉便器のレッスンをしています」

桃香「はあ、はあ、はあ」

桃香「はあ、はあ、はあ」

ナレ「後ろ手にバーを掴んで足を大きく広げるように命じられました」

ナレ「先生の手には、太いパイプが握られています」

ナレ「先生は、わたしのオマンコにそれをゆつくりと挿入します」

ナレ「情けないことに、声が止まりません」

ナレ「先生は、わたしに、今何が入ってるか声に出して言えと命じました」

桃香「今、桃香の中にバイブが入っていますう……」

桃香「んんっ……桃香のオマンコにおっきいバイブが入って、動いてますう……」

桃香「バイブ、おつきくて、気持ちいいですう……はあ はあ はあ はあ……」

桃香「ひやつ、あああああつ、あつ、あつ、んっ、んっ、んっ……」

桃香「だめえ、せんせ、い、やめてえ……」

桃香「あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ……」

桃香「……クリ擦らないでえっ!!そんなに擦られると……ふうっ……」

桃香「あっ……ふうっ……はあつ、はあつ……」

桃香「クリいいのお……クリ気持ちいいのおっ……はひっ……ん、くうっ……あはあつ……」

桃香「いきますう、いきますうッ……クリ擦られていきますうッ……ああああつ……!!」

ナレ「わたしのオマンコからはマン汁がダラダラと糸を引いて垂れています」

ナレ「先生は、今度は自分のチンポをわたしのオマンコに突きたてました」

桃香「あっ……んんっ……ひいっ……」

ナレ「腰をしっかりと持たれて、さっきのバイブとは違う感触のモノがわたしのオマンコの中で動いているのがわかります」

ナレ「先生はわたしに、この格好のまま足を高く上げてみるとおっしゃいました」

ナレ「レッスン場は鏡ばりになっていて、足をあげようものなら、一つに繋がっている先生とわたしが鏡に映ります」

(続きは製品版をご購入下さい)